

お茶高-戸山高理系女子育成連携事業

「女性研究者にインタビューしてみよう」④

この事業はお茶の水女子大学附属高等学校と本校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校、全国の理系を志す児童、生徒のみなさんに向けて発信するプロジェクトです。



ここでは地学コース1.2年生各2名が令和6年7月11日、お茶の水女子大学の長谷川准教授にインタビューした記事をご紹介します。

お話を聞いた先生：長谷川直子先生

諏訪湖の御神渡りの研究などをなさっています。

所属	基幹研究院 人間科学系 人間文化創成科学研究科 博士後期課程 ジェンダー学際研究専攻 人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ジェンダー社会科学専攻 文教育学部 人文科学科 サスティナブル社会実装機構 湾岸生物教育研究所 研究・産学連携本部 研究推進部 【教育研究部門】 文理融合 AI・ データサイエンスセンター
主担当学科	文教育学部人文科学科
担当大学院（博士前期課程）	人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻地理環境学コース
担当大学院（博士後期課程）	人間文化創成科学研究科ジェンダー学際研究専攻ジェンダー論領域

キャリアに関するお話や研究のこと、女性研究者についてのことをお聞きしました。1時間半程度のインタビューからいくつかの質問を取り上げさせていただきます。

Q.女性研究者になって良かったこと、大変だったことを教えてください。

A.良かったことは、女性理事として活動できていることです。管理役職に女性を増やしたいという方針のもと、女性限定で理事を探していたから採用された、と捉えると幸運だったのだと思います。大変だったことについては、先生によっては男尊女卑の考え方が根強くあることだと思います。また分野的な面もありますが、なんでこんなに女性が少ないのだろうと感じることはあります。このように女性で研究者をやることには、プラスな面もマイナスな面もあると思います。

Q.なぜ理系の分野から地理学を学んだのですか？

A.以前は文学に興味を持っていました。しかし、高校での学習を一通り終えて高校3年のセンター試験後に振り返ると、地理学の学習が一番興味深かったと感じたので、地理学を専攻することを決めました。

インタビュー中の様子→



Q.普段はどのようなことをされているのでしょうか？

A.研究者の方にもよりますが、一日中研究をしているわけではなく、大学の先生としての仕事も多いです。最近は自分のやりたい研究のために割く時間が短くなってきていると感じます。

Q.研究に行き詰まった時は、どのようにして解決していますか？

A.共同研究をしている方とディスカッションをすることが多いです。他の方と話すことを通じて自分にはなかった考え方や視点の気づきを得ることができ、そこから新しいアイデアが浮かぶこともあります。

Q.研究者と聞くと、男性のイメージが強いのですがどのように感じていますか？

A.特に何も感じていません。大学が女子校ということもあり、女性研究者がいて当たり前だと思っていました。あとは、自分は少し男勝りな部分があるので、より性別などは気にしていませんでした笑 研究者に性別は関係ないですからね。ただ1つ言うと、外部の学会や発表に出場する際は分野の事もあり、女性がほとんどいませんでした。その中でも、周囲と協力して研究を進めるということは常に心がけていました。

～インタビューを通じて～

今回長谷川先生からお話を伺ってみて、研究者としての活動だけではなくそれを取り巻く日々の小さな出来事を大切にすることが重要なのだと考えました。

～感想～

・実際に研究者として活躍されている方のお話を伺い、将来の選択肢の一つとして、研究者になることのイメージをつかむことができました。

・お話を聞く中で長谷川先生の、難しいことにでも進んで挑戦する姿勢を見ることができ、自分も見習いたいと思いました。

・インタビューの中で、周囲の人とコミュニケーションをとることを大切にしていると感じ、私自身も意識して学校生活を送りたいと思います。

・長谷川先生のお話を伺い、これまでの経験や苦悩を知ることができ、性別関係なく、同じ研究者として課題に取り組むことが大切なのだ学びました。